



## 巻頭の言葉

### 図書館発—知の胎動

図書・情報部長 杉原辰雄



名古屋中学校  
名古屋高等学校  
図書委員会

2018年2月26日  
No.125

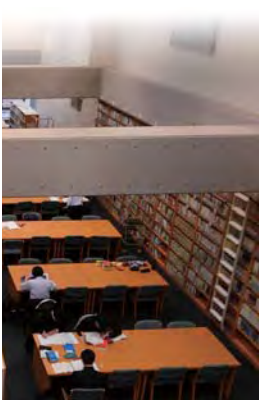


本校は2017年に創立130年を迎えました。とはいえ、盛大な記念行事が行われた訳でもなく、比較的ひっそりとした一年でした。本校図書館に関して言えば、こちらも静かながら、大きな節目となった一年でした。館内にはラーニング・コモンズが設置され、ジャンナレッジ・コモンズが導入されました。その結果、館内資料、及びノートPCやタブレットといったICT機器を有効に、且つ有機的に活用し、協同的な学びを高める環境が整えられました。そのおかげもあってか、SGHへの取り組みや、模範国連全国大会への参加、文学部に代表される部活動、文化祭の準備、及び修学旅行の調べ学習といった課外活動は、これまでにない深さと広がりを見せています。本校における学びは、新たな段階へと着実に歩を進めつつある、ということが実感できる一年でした。

さて、図書館においてどんな資料を収集し、どのような蔵書を整備していくか。こちらは、地道ながらも長い時間をかけて受け継がれていく……そんな営みといえるでしょう。一つエピソードを紹介させていただきます。本校図書館ではここ数年、哲学・思想書のリクエストが特に目立つようになりました。きっかけは、ある生徒によるニーチェのリクエストでした。教員による図書選定会議は、珍しい哲学書のリクエストを好意的に迎え入れました。しばらくして、その彼が今度はヘーゲルをリクエストしてきました。高価な本ゆえに、先生方からも「読めるのか？」との声も聞かれました。しかし、生徒の興味関心を尊重し、ヘーゲルも無事に配架される運びとなりました。その後も、毎月リクエストを続けた彼は、選定会議ですつかり有名な人になったのです。さらに、驚きというよりは喜びと言った方が適切でしょうか、いつの間にか彼の周りには、哲学・思想書を愛読するグループが形成されるようになっていきました。そして、そんな彼らはハイデガーなどもリクエストしてくるようになったのです。さすがに選定会議では「本当に読んでいるのか」「理解できるのか」という疑問も呈されました。

読書というのは、堅苦しいものではないはずです。「一冊丸ごと理解しないといけないのだ」となると、読書の楽しみや、読書が与える可能性を奪ってしまいます。難解で大部の書の、たった一ページ、もしくはわずかに一行でも心に残る。そのような経験が得られるのであれば、その本との出会いは十分価値があり、意味もあるのではないのでしょうか。これは、学校図書館が忘れてはいけない蔵書作りの観点の一つと言えるでしょう。さて、前段で述べた選定会議についてですが、生徒らの要望は無事に通じ、新たにハイデガーも配架されました。選定会議の先生方の度量の大きさには本当に感謝しありがとうございます。

先に述べた哲学書を愛する生徒のグループですが、実は全員が理系志望です。欧米においては、理系の研究職や学生ガリベラアーツとしての真の教養を身に着けることは、当然視されています。先述の生徒たちが、哲学を語るエンジニアになる……そんな将来を想像せずにはいられません。繰り返しになりますが、本校の学びは本当に新しい段階に来たのだと、強く実感しています。



# 2017年度 校内読書感想文コンクール入賞者

中学最優秀賞

## 「犬が来る病院」

を読んで

中学三年D組

横山

翔



「神よ、変えることのできないものについては、それをそのままに受け入れる平穏な心を、変えることのできるものについては、それを変える勇気を、そして、変えられることと変えられないことの違いを見極める知恵を、私たちに与えてください」

『犬が来る病院』のほとんど終わりに近いページに引用されているアメリカの神学者ラインホルド・ニーバーの祈りの言葉だ。有名な言葉らしいが、恥ずかしながら僕は知らなかった。

夏休みも八月に入り、課題図書を買に行った本屋で高校生向けの棚にふと目が留まった。白い大型犬に小さな女の子が抱き着いている表紙の絵。僕はその絵がなんとなく気に入り、中学生向けの課題図書と一緒にこの本を手にしてレジへ向かった。

題名と表紙から、セラピー犬の話だろうと思って読み進めていった。しかし、セラピー犬の話がメインだったのは二二章くらいで、所々でセラピー犬は登場するものの、話は僕の予想とは全く違う方向へと進んでいった。それでも僕は、この本にどんどん引き込まれ、一気に読み終えた。

物語には小児病棟で日々を過ごした四人の子どもが登場する。そのうち二人は病院で短い生涯を終え、二人はそれぞれ医師と臨床心理士を目指し、将来を見据えて生き続けている。

実は、僕も結構病院にお世話になっている。最初の入院は、生まれてすぐだった。帝王切開で取り出された

僕はそのまま酸素ボックスに入れられ、救急車で大きな病院の新生児集中治療室へと運ばれ、しばらくその中で育った。

もちろん僕に当時の記憶はないが、記録された写真や動画を見返すと、僕の鼻にはチューブが、胸や腕には様々な色のコードが繋がっている。知らない人が見たら、とても驚く姿だと思いが、うちの家族は「うちなんて全然」という。同じ病院の他の子どもたちや、その家族、それをささえる医師、看護師の様子を見て、僕くらいの程度ならどうってことないと思え、思ったらしい。

二度目の入院は、小学校五年生の時である。二週間、朝から数時間置きに腕に注射を打ち続けた。最初は利き手ではない左手から打っていたが、だんだん打つ場所がなくなり右手にも打った。注射を打っていると、次第に腕がはれ上がり、痛くて曲げることができなかつた。痛みがひいてくるころにはもう次の注射の時間がやってくる。結局一日中痛かつた。その時、僕は少しでもこの苦しみを忘れる方法について考えた。そこで、まず同室の同じ治療を受けていた子と仲良くなった。それから毎日、病棟の探検に明け暮れた。最初は僕たちの行動を不思議そうに見て

いたおじさんたちとも仲良くなった。自分のベッドの上で、静かに痛みを耐えているのは本当に苦痛だったが、同じ痛みも病棟内を走り回って、おじさんたちと色んな話をしていたときは忘れられた。次の注射までに部屋に戻らず、先生や看護師さんに怒られた。

先生、看護師さん、掃除に来てくれたおばさんたちも、治療や仕事以外の時間にも、いつも僕たちのことを気にかけて、声を掛けてくれた。こうしたことから、自分の周囲に人がいるということがどんなに大切なことなのか、当時の僕にでもよくわかつたし、同時に小児科のお医者さんになろうかなとも思った。

その後、僕の通院は三年半に及んだ。二週間に一度の通院が、一カ月に二度になり、しだいに通院する回数も減つたが、最後の通院まで病院で顔を合わせると、いつも皆声を掛けてくれた。「今日で最後にしましょう」



と先生に言われたとき、ほっとしたと同時に、一抹の寂しさも感じた。

本の中に出てくる子どもたちと、僕の入院では、その程度が比べものにならないことはよくわかっている。それでも、子どもにとつて、日常から切り離された病棟に閉じ込められた生活は、本当に苦痛なものだ。ましてそれが先の見えない入院であればなおさらである。だからこそ、日常生活を大切にしていこうと思った。動物が身近に居ること、勉強する環境があること、友だちと交流できること、音楽や絵本に触れること。普段なら気にもかけないたくさんのこと。すべてにありがたみを感じながら生活を送つていこうと思う。

この本の最後に、退院した二人のその後が書かれている。そこで登場するのが、冒頭のニーパーの言葉だ。

僕たちは自分ではどうしようもないことで悩んだり、悔んだり、その一方で、やらなきゃいけないことをやらなかったり、自分が動けばなんとかなることなのに、その一歩が踏み出せないでいたり。そんな風に毎日が何となく過ぎていく。

短い本だったが、心にガツンと来る本だった。来年は高校生だ。そろそろ、真剣に将来を考え始めようと思う。ここから一歩踏み出す勇気を持つて。

# 愛校祭 BOOK・ON



皆さん本を読んでいますか。読了した本はどうしていますか。まさか捨てるなんてことありませんよね。我々図書委員会では、毎年愛校祭にてBOOK・ONを行います。

何をしているかと申しますと、事前に図書委員を通して本校生徒・職員の皆さんから本・CD・DVD等を頂戴し、これを愛校祭にて販売しております。その売上金は全てクリスマス献金となります。本年度は、皆さんのおかげで昨年と同量ぐらいの1000冊を超える本が集まりました。売上に関してはこちらの数年連続で最高記録を更新しております。この取り組みは、ひとえに皆様のご協力があつて成立しております。

もし、捨ててしまふ本がございましたら、是非図書館の方に持ってきてください。どんな本でも構いません。絵本・雑誌は勿論のこと、ラノベ・漫画等どんな持ってきてください。来年度も今年度の売上を超えられるよう、図書委員でBOOK・ONを盛り上げていきたいです。

(5C 長澤終介)



## 初夏の読書週間

### 校内ビブリオバトル

昨年の初夏に僕は名古屋高校図書館で行われたビブリオバトルに参加した。ビブリオバトルとは、自分の紹介する本をどれだけ聴衆の皆さんに読みたいと思わせたかを競うも



ビブリオバトル  
4B 後藤 豪太  
5D 牛田 大貴

のだ。僕にとっては人生二回目のビブリオバトルでまだまだなことをどう伝えればいいのか分らなかつた。そんな曖昧な状況の中、前夜には鏡の前でなんども繰り返し練習をした。本番当日、午前中の授業がなにも頭に入っていないくらい緊張していたが、みんなの前に立ちタイマーがスタートした瞬間、しっかりと

切り気持ちを切り替えることができた。そして、自分の思いも伝わり、なんとか勝つことができた。でも僕はビブリオバトルとは勝敗を競うものではないけれど、それ以前にバトルは読んだ本の、より具体的な新しい側面に出会える点が重要だと思う。そして、聴く人達はまだまだ読んだことのない未知の本に出会える。この2つの出会いがビブリオバトルの本質であるような気がする。ぜひ機会があれば、バトルとしても聴衆としてでも一度足を運んでみてほしい。

(4B 後藤豪太)

### ビブリオバトル東海大会

#### 観戦記録

昨年の十月、椋山女学園大学内に於いてビブリオバトル東海地区大会が開催されました。

まず、本校からの参加者である図書委員一年の後藤君は「今からちよつと仕事やめてくる(作 山本恵美)」という本を紹介しました。富士蒼汰主演で映画化もされた人気作です。働く人々の疲れや悩みにふれながら、最後には自らで人生を切り開いていくというこの本のメッセージを、自分の体験を踏まえながら解説していたのはとても良かったです。



今大会で優勝を制したのは東海高校二年の青木さんです。「哲学的な何か、あと科学とか(作 飲茶)」を紹介されました。この本は私学合同読書会のテーマ本としても使われたので、僕たち図書委員としても記憶に新しいです。哲学的なテーマや科学の知識を、ユーモアたっぷりの図解や軽妙な文体でやさしく説明されている良著でした。青木さんの理路整然としつつもコミカルな語り口が優勝

の決め手になったのでしょうか。全国大会では惜しくも入賞を逃したものの、全国から集った発表者の中で健闘されました。

今大会で発表された本の中で、「哲学的な何か、あと科学とか」以外にも、「失われたドーナツの穴を求めて(芝垣亮介・奥田太郎編)」という本が個人的に印象に残りました。「ドーナツの穴」という一見何の変哲のないものから、様々に発想を飛躍し、理系や文系の垣根を越えてアイデアが結集しているとても興味深い冊です。図書館にも入荷してあるのでぜひ手に取ってご覧ください。



これらの本以外にも多くの魅力的な書籍が紹介されてきました。字数の都合上すべてを紹介することはできませんが、興味のある方は、直接、ビブリオバトルに参加してみたいかがでしょうか。

(5J 岩畑宙良)

# 私学合同読書会

僕は第79回私学合同読書会の総合書記と名古屋高校分科会司会として本会に参加しました。また、当分科会の書記は水谷君が務めました。

## 本会までの経緯

今回選ばれた本は「飲茶著 『哲学的な何か あと科学とか』」で、プレゼンターは東海高校の方でした。事前に行われたビデオバトルで圧倒的な票を得て、本会で討論される「チャンプ本」となりました。キャッチーなタイトルと、彼のプレゼンの完成度の高さが得票に繋がったのかと思います。彼は、そのプレゼンにおいて、「哲学なのに読みやすい」という点を強調して述べていました。通年、持ち寄ってくるのは小説か、それに類するものばかりでした。そのため、哲学書に対して逆に目新しさが生まれるたのかもしれない。

## 本会の各分科会の取り組み

### 1. 愛知淑徳

自分に心があるのは何故? という論題(多分、心という存在がどのよう機能しようとしているのか、という問い)に対して、前提条件である「心が存在する」という段階で留まってしまう、その先の議論が展開されなかつたようです。

### 2. 榎山女学園

記憶を完全に再現できるなら不老不死? という問いです。個人的にこれは固有の精神が別個にあるのは分かり切つているという、問いを発する側が答えをコントロールしているように見えて好きではないのですが、やはり議論があまり白熱しなかつたようです。

### 3. 名古屋

名古屋高校の分科会では、討論ポイントの提示に対して本会以前から対策を行っていました。話された内容としては、「人工知能に心は生まれるのか」「この現実が本物だと思われるのか」「この証明できるか」の二つです。本来三個の議題があつたのですが、話し合いを続けるうちに、「人工知能に心は生まれるのか」に吸収されていきました。

### 4. 大谷

話された論題は「人工知能に心は生まれるのか」でした。第三者の目線から、人工知能が予期せぬ動作をし

たならば、喜怒哀楽があることになり、少なくとも感情は成立すると考えたようです。しかし、名古屋高校分科会では、人間には感知し得ぬ領域で、つまり機械の領域では人工知能のみならず、ネジやボルトですら精神があることを否定することはできないとし、また別の意見では、ロボット間で本来の意志のやり取りが行われていたとしても、我々人間には感知できないのではないか、という意見もでたことから、大谷高校さんも、更に議論を広げる余地はあつたのかと思います。

### 5. 金城

こちらの分科会は趣に異なるのか、この本を読んだの感想を述べるという、ある意味正解な反応を見せました。絶対「校は出ると思つていたので特に驚きはしませんでした」が。

### 6. 滝

こちらの分科会はとても面白く、「どこでもドアーのようなエピソードを考える」を議題に提示し、実際に独裁スイッチの仕組みについて考察を述べていました。簡単に言うとうと、手が消えるのではなく、相手がもとと世界に存在しないパラレルワールドに使用者が飛ばされるというもの、それならば原作に矛盾が生じないしユニークで面白いな、と思いましたが、最初提示していた討論ポイントには他にも多くあり、こちらも

興味深かつたので少し残念です。

### 7. 東海

プレゼンターが居る分科会で、実際に他の分科会と比べても密度の濃い話し合いができていたようですが、やはり時間的な都合により、当初提示していた議題全てをこなすことは出来なかつたようです。

話された議題は「哲学的ゾンビはいるかどうか」で、初めにいる派、いない派で分かれて話し合うようにしたのは面白いと思えました。しかし、欠点として、話者の固定化を促してしまい、喋る人しか喋らない進行になつてしまつたようなので、少し残念です。

### 8. 東邦

こちらの分科会は「どこでもドアーに入りたかそうでないか」で意見を募つたそうです。

以上が、全ての分科会の内容とそれに対する僕の所感です。個人的には各分科会に合った臨機応変な対応を心がけていくべき、ということを考えました。また、例年参加されている先生方は、一年ごとに参加校の議論の水準が上がっていると仰つていました。このことは、各校の先輩方が努力した結果なので、我々も負けずにこの歴史ある読書会を発展させていけたらと考えています。



## 私学合同読書会 ビブリオバトル 於:東海高校

7月15日、東海高校で催された私学合同ビブリオバトルに、バトルーとして参加させていただきました。

本校の図書委員会が毎年参加している催しで、昨年度には6F留安先輩が優勝しています。当日は少し早くに集合し、応援に来てくれた名高の図書委員らと共に他校からの参加者が揃うのを待っていました。人が増えるにつれて東海高校の大教室は市井の喧噪めいてゆき、普段関わりのない人々とこの日に知り合えるのだと思うと、期待に胸が膨らみました。

バトルーは僕も入れて六、七人程で、皆個性豊かな本を選んでいきます。僕の紹介した本は普通の小説でしたが、或る生徒はVOCALOID曲を原作としたライトノベル、また或る生徒は哲学や科学のエッセイ集、他には世界のジョークを蒐集した事典など

という変わり種を紹介する生徒もおり、そのバラエティの広さに大変驚かされました。ビブリオバトルは大盛況を博し、最終的には哲学のエッセイ集を紹介した東海高校のプレゼンターがその軽妙な語り口で優勝。僕は二位でしたが、大いに学びを得ることができ、また交友を広げることもできました。

ビブリオバトル後には東海高校図書部の部室をお借りし、「二次会」と称された有志による雑談会のようなものが開かれました。他校の本を愛する生徒との会話は「こちらが本番なのではないか」と思われるほど愉快で、大いに刺激されました。

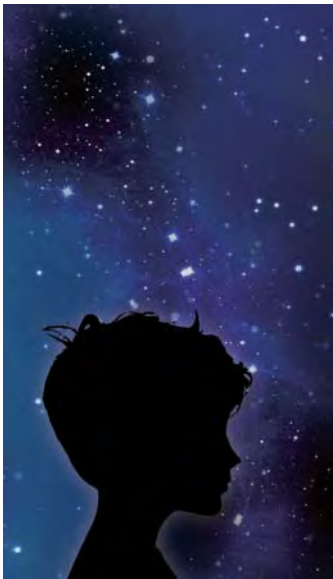
この催しで結ぶことができた多くの縁を大切に、またこれからも、より一層読書に励んでいこうと思います。

(5D 牛田大貴)

### 書 雑 感

「良い小説」というものについて、村上春樹は「上質なうそ」と簡潔に答える。これはエルサレム賞受賞時の伝説的なスピーチ『壁と卵』においても、自らの小説家としての存在理由として繰り返し語る。読者を笑わせ、泣かせ、怯えさせ、怒らせ、ときには人生における深い示唆をもたらす。それら「うそ」をいかに上手くダイナミックに造り上げるかが、小説家の力量であると彼は語る。当時、ガザ地区の虐殺が国際的に非難されたユダヤ人国家であるイスラエルの首都で、政府要人の目前にして彼は堂々と小説家としての自己と強大な国家は相反するものだと言った。強大なシステム(社会)に個人の尊厳が擲めとられ、貶められることのないように、つねに個人の魂に光を当て、警鐘をならすのが、物語の力、ひいては役割なのだと語る。

聖書の次に多くの人に読まれた本として、『星の王子さま(サン＝テグジュペリ)』がある。フランス軍の空軍士官であった彼は、第二次大戦中にこの本を出版した。



未曾有の戦禍に苦しむ人々に向けて、軍人である彼は、「いちばんたいせつなことは、目に見えない。」という言葉をさいごに、出版から約一年後、偵察機で出撃し、地中海に消えていった。

彼ら二人の小説家は、作品を通じて、「我々の一人一人の生きた魂のかけがえのなさを明らかにしようと試み続ける(村上)」ことを真剣に追求した。それが、良い小説家の条件なのだろう。

最後に、ある作家の言葉を借りて、小文の終わりとさせて頂こうと思う。

『本当に僕が感動するのはだね、全部読み終わったときに、それを書いた作者が親友で、電話をかけたときにはいつでもかけられるようだったらしいな。と、そんな気持ちを起こさせるような本だ』

J.D.サリンジャー

(ユダヤ人作家)  
(5J 岩畑宙良)



# 新春かるた会



一月十日、第41回新春かるた大会が開催されました。各クラスを勝ち抜いた代表者たちによる試合は、非常に白熱した展開となりました。ほとんどのペアが上の句で札を取っていく、ハイレベルな雰囲気の中、私はある二人に注目しました。中学生の部優勝者、3C木村・則竹ペアです。彼らは大会終盤になっても全く疲れを見せず、常に生き生きとした機敏な動きを見せていました。彼らは札の間違い、お手つきの回数も多く、必ずしも完璧な試合展開とは言えません。しかし、躍動感を伴って目まぐるしく変化する彼らの様子は、見ている者をも引き込み、大いに楽しませていました。

大会決勝戦では中学生と高校生、互いの優勝者が戦って勝敗を決します。高校生の部優勝者、5B金田・杉山ペアはトーナメント第一試合から相手ペアに常に大差をつけながら勝ち進んできました。正確な知識からくる安定した強さは圧巻でした。結果から言えば、高校生の部優勝者、金田・杉山ペアの優勝でした。ですが彼らもまた、楽しむ心を忘れず、また相手への配慮を欠かさないスポーツマンシップに溢れた選手でした。今日の日のために多くの句を覚え、勝ち上がってきた彼らのそんな様子を見てみると、勝利への貪欲な執念だけではない、純粹に百人一首を楽しむ心を垣間見た気がします。



図書貸出ランキング(中学)

順位	書名	著者名	出版社
1位	ハリーポッターと呪いの王子 第一部 スベリアル・ハリーポッターの冒険	J.K.ローリング	静山社
1位	空想科学読本13 <そんなコトして死なないの!?!>編	柳田理科雄	メディアファクトリー
1位	空想科学読本14 <各キャラ対決!どっちがすごい?!>編	柳田理科雄	メディアファクトリー
4位	進撃の巨人空想科学読本 KODX	柳田理科雄	講談社
4位	空想科学読本12 [科学で解けない超難問]編	柳田理科雄	メディアファクトリー
6位	空想科学読本16 柳田理科雄	柳田理科雄	KADOKAWA
6位	空想科学読本15 <愛は地球を滅ぼす>編	柳田理科雄	KADOKAWA
8位	空想科学読本7 柳田理科雄	柳田理科雄	メディアファクトリー
9位	銀の空想科学読本 BEST版	柳田理科雄	メディアファクトリー
9位	スノーピーク-こんな生き方探してみよう	チャールズ・M	朝日新聞出版
11位	ぼくらの大脱走	宗田 理	ポプラ社
11位	空想科学「漫画」読本4	柳田理科雄	日本文芸社
11位	金の空想科学読本 BEST版	柳田理科雄	KADOKAWA
11位	空想科学読本17	柳田理科雄	KADOKAWA
11位	ハリーポッターと不死鳥の騎士団 5-1	J.K.ローリング	静山社

図書貸出ランキング(高校)

順位	書名	著者名	出版社
1位	蜜蜂と遠雷	恩田 陸	幻冬舎
1位	俳句の図書館	堀本裕樹	KADOKAWA
3位	羊と鋼の森	宮下奈都	文藝春秋
3位	夜は短し歩けよ乙女	森見登美彦	角川書店
3位	コンビニ人間	村田沙耶香	文藝春秋社
3位	いなくなれ、群青	河野裕	新潮社
3位	罪の声	塩田武士	講談社
3位	氷菓	米澤穂信	角川書店
3位	君の膵臓をたべたい	住野よる	双葉社
11位	これからの「正義」の話をしよう いまを生き延びるための哲学	マイケル・サンデル	伊川書房
11位	カラダを大きくする	野沢秀雄	ベースボールマガジン社
11位	天空の蜂	東野圭吾	講談社
11位	学年じのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話	坪田信貴	KADOKAWA
11位	図解雑学ディベート 図解雑学シリーズ<社会科学>	鈴木 勉	ナツメ社
11位	少女	湊かなえ	双葉文庫

期間：2017年4月6日～2018年1月31日

2017年度より、本校図書館ではiPadとノートPCの利用と貸出が可能となりました。下の表は、月ごとの貸出数を示しています。授業はもちろん、課外活動においても利用されています。夏休みから秋にかけて貸出数が多い理由としては、定期的に文化祭の催し準備や、修学旅行の調べ学習などに利用されているからです。利用場所は、図書館閲覧室においてはもちろんですが、やはりラーニング・コモンズが目立ちます。書架から自由に資料を持ち寄って、ラーニング・コモンズではグループでワイワイやりながらタブレットやPCで資料を作成する……そんな光景がすっかり一般的になりました。また、プレゼン資料をiPadで作成することを課題に出す授業もあり、放課後に図書館でプレゼン作成に精を出す中1生も多く見られます。



2017年度図書館でのiPadとノートPCの貸出数

月	iPad			月	ノートPC		
	授業	授業以外	単位:台		授業	授業以外	単位:台
5月	619	3	622	5月	-	-	-
6月	1016	44	1060	6月	-	-	-
7月	132	141	273	7月	-	-	-
8月	116	295	411	8月	-	-	-
9月	538	588	1126	9月	3	81	84
10月	912	211	1123	10月	17	56	73
11月	297	40	337	11月	28	109	137
12月	45	15	60	12月	5	46	51
1月	0	12	12	1月	8	60	68
2月	0	13	13	2月	0	42	42
計	3675	1362	5037	計	61	394	455

名古屋中学校・高校の皆さんは、普段どのように図書館を利用されているでしょうか。私の個人的な見方としては、やはり静かな勉強の場として利用されている場合が多いようです。そんな方々にこそ、本校の「質・量」とともに県下トップクラスの蔵書に触れていただき、読書の魅力や楽しさを感じてほしいと、我々図書委員は願っております。

さて、我々図書委員の二年間の活動を振り返ってみると、多くの行事に参加させていただいたものと驚かされます。校内行事だけでも、初夏・秋の読書週間、愛校祭のBOOK・ON、初春のカルタ大会など、皆さんの記憶にも新しいのではないのでしょうか。また、校外行事に関しては、近隣の学校との図書を通じた交流は、我々図書委員の見識を深めるものとなったことを信じて疑いません。

これら様々な活動は、先生方や司書さん、受験の年であるのに多くの活動に力を貸してくださった先輩方、そして活動を支えてくださったすべての生徒の皆さんのおかげです。この場を借りて、お礼申し上げます。

最後になりますが、皆さんが読書を通じて自らの世界を広めていく、そのための一助として図書館を利用していただければ幸いです。これからもどうぞよろしくお祈りします。

編集後記

図書館報 編集委員一同